

ナミビア月報

(2023年7月)

在ナミビア日本国大使館

【内政】

- AR 党 (Affirmative Repositioning) が政党登録を申請

【経済】

- ナミビアは太陽光発電に最適な国だが、ソーラープロジェクトは少ない
- カンジョゼ国家計画委員会長官、グリーン水素が失業撲滅につながると主張
- スワコプムントにアフリカ初の水素発電所を建設

【外交・対外関係】

- 「西側諸国は我々を弱体化させようとしている」駐ナミビア・露大使の発言
- ムブンバ副大統領、第2回露・アフリカ・サミットに出席

【内政】

- AR 党 (Affirmative Repositioning) が政党登録を申請

AR 党は、ナミビア選挙管理委員会 (ECN) に正式に政党として登録されるための申請書を提出した。これは昨日、ECN のジェイコブス選挙管理官代理が確認したものである。選挙管理団体から承認を得られれば、AR 党は来年の総選挙に出馬し、大統領選挙の候補者を擁立することができる。AR 党の創設者の一人であるアムパンダ氏は、すでに来年の大統領選挙に出馬する計画を公言しており、いくつかの声明を発表し、自らを「次期大統領」に任命している。

昨日、AR 党のスポークスマンであるカンバラ氏は、この件についてコメントできないと述べた。ナミビアには現在 22 の政党が登録されている。AR 党の政治的野心について、フレデリコ・リンクス (公共政策研究所 (IPPR) のリサーチ・アソシエイト) は、この動きは驚くことではない、AR 党は土地と住宅に関する約束をまだ果たしていないと述べた。

また、リンクス氏は、AR 党が土地の約束を果たせなかったことが、2020 年のウィントフック市評議会選挙での不振の一因かもしれないと付け加えた。同選挙において AR 党は 15 議席のうち 2 議席しか獲得できなかった。

(4 日付サン紙 2 面)

【経済】

●ナミビアは太陽光発電に最適な国だが、ソーラープロジェクトは少ない

ナミビアは太陽エネルギーに最適な日照量を持っていると世界にアピールしているが、屋根にソーラーパネルを設置している家庭は多くない。ナミビア統計局（NSA）が発表したデータによると、貧困の有無にかかわらず、調理、暖房、照明のいずれかに太陽エネルギーを利用している世帯は10%に満たない。太陽光発電設置の専門家であるサケウス・ナカンヤラは、「大きな関心が寄せられ、設置件数が増えています。最大の制約は資金調達です。ほとんどの人は、これらのシステムを購入する余裕がないか、融資を受ける資格がないのです」。ナミビアは太陽エネルギーの巨大な可能性を秘めているが、同国のエネルギーの60%は近隣諸国から輸入されており、人口の40%は送電網から切り離されている。

（20日付ナミビアン紙11面）

●カンジョゼ国家計画員会会長官、グリーン水素が失業撲滅につながると主張

国家計画委員会会長官であり、グリーン水素協議会の議長でもあるオベス・カンジョゼ氏は、24日 Keetmanshoop で行われた、ナミビア政府の社会経済開発枠組みと、カラス州の Tsau/Khaeb 国立公園に設置される Hyphen グリーン水素プロジェクトの立ち上げの中で、国家グリーン水素の野望を通じて最大60万人のグリーン雇用を創出することで、2040年までに失業者を撲滅する計画であると語った。

（25日付ナミビアン紙3面）

●スワコプムントにアフリカ初の水素発電所を建設

将来的に再生可能エネルギー発電所である Renewstable Swakopmund（RSWK）は、日中と夕方に30MW、夜間に6MWの電力を発電し、230MWhの蓄電容量を持つ。建設開始は2024年で、設備投資額は45億ナミビアドルと見積もられている。プラントは年間約1,400トンのグリーン水素を生産する予定で、化石燃料への依存を減らすための「重要な一歩」となる。

（27日付ナミビアン紙5面）

【外交・対外関係】

●「西側諸国は我々を弱体化させようとしている」駐ナミビア・露大使の発言

駐ナミビア・新露大使ドミトリー・ローバツハ氏は今週、自国とウクライナの現在の対立はウクライナとは何の関係もなく、むしろロシアと西側諸国との間の長期的な確執であると述べた。同大使によれば、これは西側諸国がウクライナを通じて、ロシア政府の開発努力と社会経済的進歩を弱体化させようとしている代理戦争だという。大使は、今週初めにガインゴブ大統領に信任状を提出し、ナミビアとロシアは経済関係を改善する必要があると付け加えた。

（21日付サン紙2面）

●ムブンバ副大統領、第2回露・アフリカ・サミットに出席

ムブンバ副大統領が強力なナミビア代表団を率いて、バルト海に面したロシアの港湾都市サンクトペテルブルグを訪れ、金曜日に閉幕した第2回露・アフリカ・サミットに出席した。ナミビアの代表団は、閣僚、国会議員、学者、企業代表で構成され、ナミビアへの投資家誘致のため、最高レベルで極めて活発に活動した。多くの参加者で賑わったインダバから得られた主な収穫のひとつは、ナミビアとロシアの間で食肉貿易の相互協定に関する交渉が進行中であることをムブンバ副大統領が確認したことだ。ムブンバ副大統領はまた、ナミビアの新たな成長エンジンとして提案されている「グリーン水素」を提唱・推進した。

ムブンバ副大統領は、サミットでアフリカ首脳の高レベル・パネルに出席し、ナミビアは「ウクライナにおけるロシアの特別作戦」と呼ばれるもの、そしてその人道的影響が世界的な経済発展やアフリカ大陸に与える影響を注視してきたと述べた。従って、ナミビアは、この壊滅的な紛争を終わらせるために行われている全ての努力を支持すると述べた。多国間システムの改革問題について、ムブンバ副大統領は、ナミビアは、先進国と発展途上国の双方に平等な利益を提供するために、国際金融システムを改革する必要があると強く確信していると述べた。

(31日付ニュー・エラ紙1・2面)

(了)